

児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるための道徳の時間

体験活動と道徳の時間の関連を図る

道徳研究会議

南雲 和子¹

天川 史夫²

小林 祐子³

堀田 靖子⁴

要 約

子どもたちの「心の荒廃」の問題は、現在、見過ごすわけにはいかない緊急の課題となっており、子どもたちへの「心の教育」が学校に強く求められている。

「心の教育」において重要な役割を果たす道徳教育では、そのかなめとなる「道徳の時間」で道徳的価値の自覚を深め、よりよく生きようとする児童生徒の育成を目指すことが必要である。

児童生徒の道徳的価値の自覚を深めるために、体験活動における「さまざまな気づき」と「道徳の時間」にねらいとする「価値内容」の関連を考えた。道徳的価値の自覚が深まることによって、確かな道徳的实践力を身に付け、道徳的实践への志向にまで心情を高めることができるはずだからである。

「心の教育」と深く関わる内容を取り扱うことが可能な「総合的な学習の時間」に体験活動の場を求め、ねらいとする「価値内容」と体験活動における「気づき」の関連を図った「道徳の時間」を実践した。検証授業において、児童生徒の道徳的価値の自覚が深まった姿をとらえることができた。

キーワード：道徳的価値の自覚、道徳の時間、総合的な学習の時間、体験活動、さまざまな気づき、道徳的实践への志向

目 次

主題設定の理由	150	研究のまとめ	162
1. 道徳教育と「生きる力」	150	1. 研究の成果	162
2. 道徳的価値の自覚を深める	150	2. 今後の課題	163
研究の内容	151	参考文献	164
1. 研究の仮説	151	指導助言者	164
2. 研究の方法	151	研究協力者	164
3. 体験活動と「道徳教育及び道徳の時間」の関連について	151		
4. 児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるために	153		
5. 「道徳の時間」と「総合的な学習の時間」における体験活動の関連を図った検証授業	154		

¹ 川崎市立御幸中学校教諭（長期研修員）

² 川崎市立富士見中学校教諭（研修員）

³ 川崎市立小田小学校教諭（研修員）

⁴ 川崎市立川中島小学校教諭（研修員）

主題設定の理由

1．道徳教育と「生きる力」

科学技術の発達や高度情報化社会の実現により、現代社会は、日々大きく変化している。その変化が国民生活に豊かさをもたらしたことは事実であるが、凶悪犯罪の低年齢化など、子どもたちにかかわる様々な社会的問題が起きていることも事実である。そして、学校現場では、非行や学校不適應、学級崩壊等の問題が山積している。

これらの原因の一端は、子どもたちの心の荒廃であると考えられる。だからこそ、現在、子どもたちへの「心の教育」が強く求められているのである。

これからの学校教育においては、「生きる力」を培うことが必要不可欠である。道徳教育では、「心の教育」を通して、この「生きる力」の重要な要素である「豊かな人間性」が育成されていく。「豊かな人間性」とは、感動する心や正義感、倫理観や思いやりの心、責任感や寛容な心などの感性や道徳的価値を大切に作る心であるにとらえられる。このような心を育てることが、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育なのである。

2．道徳的価値の自覚を深める

例えば、中学生の様子を見ていると、「頑張ったってむだだよ」「どうせ私なんか」などと自分の力や自分自身を肯定できない生徒を目にすることがある。このような生徒は、自分の人生に対して投げやりで自分自身を大切にできないばかりでなく、他人をも大切にすることができない。その結果、うまく人間関係が保てず孤立したり、逆に孤立を恐れて友達に迎合したりしてしまう。どちらの場合でも居心地の悪さに変わりはなく、さらに投げやりになり「どうでもいい」という言葉を多く口にし、生活面でも学習面でも目標や希望を見出すことができない。

また、何か解決しなければならない問題が起き、それが直接自分にかかわることだったとしても、自分自身で方法を考えたり選択したりすることができない生徒も多い。「どうしていいかわからない」「もう学校に行きたくない」と、問題や状況から逃避しようとする傾向も強く、誰かが手を差し延べ解決してやらないと不登校などにもなりかねない。

このような現状から、学校では、児童生徒が自尊感情を高め人間関係を促進するなど、様々な場面にうまく適応できるようなカウンセリング的な発想の生徒指導の重要性がクローズアップされている。一方、このような指導だけでは、将来を見据えよりよく生きようとする児童生徒を育成することはできない。すなわち、学校の全ての教育活動における道徳教育を通しての、生き方指導はなくてはならないものである。より一層充実した「心の教育」を行い、道徳的価値を自覚し、自ら考え、よりよく生きようとする児童生徒の育成を目指すことで、児童生徒になにがしかの変容が見られるはずである。

道徳の時間は学校の教育活動全体で行われる道徳教育を、補充、深化、統合する、いわばかなめとしての役割を担っている。つまり、道徳の時間は、人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的価値について学び、道徳的価値についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するための時間である。

道徳的価値とは、「よりよく生きようとする時の指針」であり、本来、外から与えられるものではなく、自分自身が主体的に求めるものである。道徳的価値を自覚することについて、学習指導要領に記載されている3点を要約すると、道徳的価値を理解すること、道徳的価値を主体的に把握すること、

道徳的価値を実践しようとする意欲を喚起することと考えることができる。道徳的価値の自覚を深めることで、道徳的実践を行うための内面的な力、つまり、道徳的実践力が確かなものになると考えられる。

しかし、「道徳の時間」の中で、一人一人の児童生徒に道徳的実践力が養われたとしても、それらの資質を啓発するためには、道徳的実践の場が必要である。道徳的実践力を育て、児童生徒が自分なりに自覚した道徳的価値をもとに実践を目指し、より確かな道徳的実践を求めてそれを繰り返すことで、さらに道徳的実践力も高まっていくのである。「道徳の時間」での道徳的実践力をつける指導と体験活動での道徳的実践を目指す指導が、相互に響き合ってこそ道徳的価値の自覚が深まり、それがより主体的なものになっていくのではないだろうか。

そこで、次のような研究主題を設定した。

[研究主題]

**児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるための道徳の時間
体験活動と道徳の時間の関連を図る**

研究の内容

1. 研究の仮説

本研究会議では研究主題から次のような仮説を設定した。

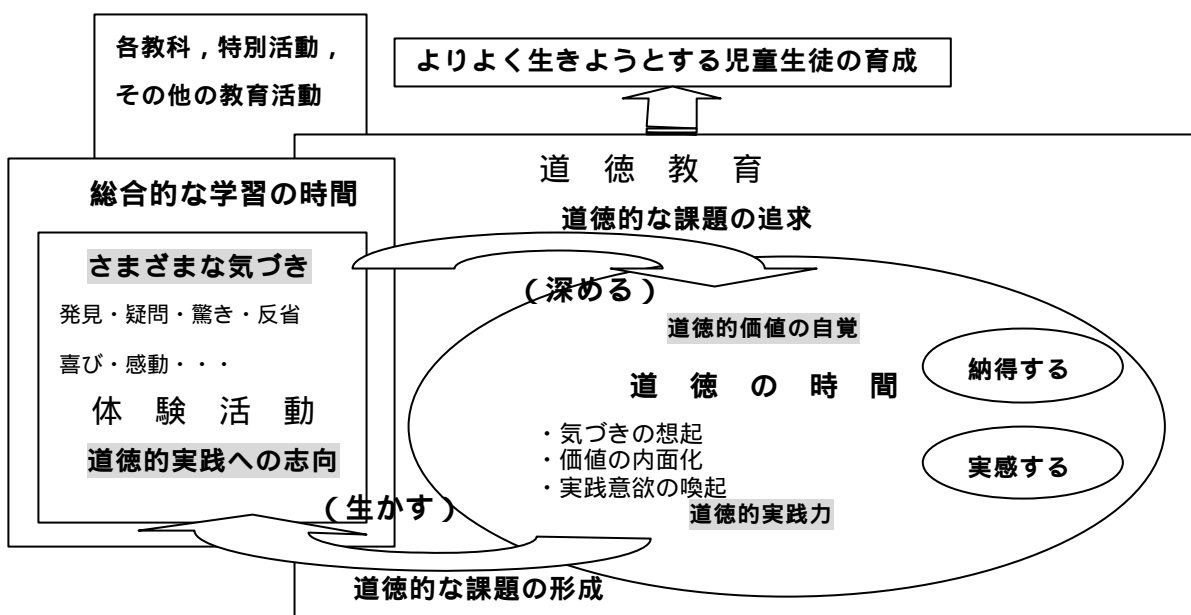
道徳の時間にねらいとする価値内容と体験活動における「気づき」を関連させることで、児童生徒の道徳的価値の自覚が深まるであろう。

2. 研究の方法

本研究会議では、研究主題をもとに以下のような方法で研究を行った。

- (1) 体験活動を生かした道徳授業について、先行研究や文献にあたる。
- (2) 道徳的価値の自覚を深めるための道徳の時間について、実践を通して考察する。

3. 体験活動と「道徳教育及び道徳の時間」の関連について



< 「総合的な学習の時間」における体験活動と「道徳の時間」の関連図 >

(1) 「総合的な学習の時間」における体験活動と「道徳の時間」の関連

道徳教育及び道徳の時間における指導の一層の充実を図るため、平成10年告示の学習指導要領には道徳教育改善の基本方針として3点が示されている。その3点の筆頭に示されているのが「体験活動等を生かした心に響く道徳教育の実施」である。つまり、「道徳の時間」に道徳的価値を自覚し課題意識が生まれ、体験活動の中での課題の追求を通して、道徳的価値に対する自覚がより深まっていくと考えられる。この意味で、体験活動は、欠くことのできないものである。

各教科等ではそれぞれの特性に応じて、多様な体験活動が取り入れられており、計画的に全教育活動における体験活動と道徳教育の関連を図ることが大切である。

新教育課程においてとりわけ体験活動を重視している「総合的な学習の時間」が創設され、平成14年度より全面実施される。学習指導要領の「総合的な学習の時間」の学習活動の展開に当たっての配慮事項には「自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。」と述べられていることから、体験活動が重視されていることは明らかである。「総合的な学習の時間」では、児童生徒の興味や関心に基づく体験的な学習が行なわれるため、多様な内容の体験活動を展開できる。それぞれの課題を発見し追求しながら、児童生徒には、体験活動において「さまざまな気づき」が生まれる。

また、「総合的な学習の時間」のねらいの中には、中学校を例にとると「・・・自己の生き方を考えることができるようにすること」と明記されている。ここでいう「生き方を考える」とは、「自己を見つめ、現在や将来について真剣に考え、卒業後の進路を主体的に選択し、生きがいのある生活を実現していくという自己の生き方について考えることができるようにする」という意味である。一方、「道徳の時間」の目標には、「道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め・・・」と記されている。これは、「人間にとってあるべき姿はどんなものなのか」「その中で自分は何を一番大切にするのか、また、他者は何を大切にしているのか」「夢や希望を追求し、さらによりよく生きるためにはどうしたらいいのか、自分自身が主体的に考えられるようになる」ということであると考えられ、双方のねらいには共通するものがあると言えよう。

そして、「総合的な学習の時間」の学習活動の例としては、「・・・国際理解、情報、環境、福祉・健康など」が挙げられている。これは「道徳の時間」の内容項目の指導の観点で具体的に述べられている23項目と合致する部分がある。小学校においても同様に言えることである。

このように「総合的な学習の時間」、特にその中で行われる体験活動と「道徳の時間」を関連させ、「道徳教育及び道徳の時間」の指導の一層の充実を図ることは十分可能であると考えられ、児童生徒が、道徳的価値の自覚を深めるために有効であると思われる。

(2) 「道徳的価値」と「気づき」の関連

「道徳の時間」と「体験活動」の関連を考える場合、今まで、双方の内容的な関連を図ることが多かったように思われる。例えば、「体験活動」で車椅子体験などを行ったあと、「道徳の時間」の読み物資料では、福祉を扱った内容のものを取り上げるといった方法が、とられてきたのではないだろうか。

しかし、児童生徒が、「体験活動」で感じていることは様々であり、必ずしも教師が感じて欲しいことを感じたとは限らない。それは、個々の体験という性質上、当然のことである。したがって、内容の関連を図っても、児童生徒の心の中では「道徳の時間」と「体験活動」がうまく結びつかず、その結果道徳的価値の自覚を深められずに終わってしまうという事態も起こってくる。

児童生徒が「体験活動」で感じた「気づき」を引き出し、「道德の時間」にねらいとする「価値内容」と関連を図らなければ、道德的価値の自覚を深めるための関連とは言えない。この点に注目して本研究を進めた。

児童生徒が道德的価値の自覚を深めるために、＜「総合的な学習の時間」における体験活動と「道德の時間」の関連図＞のように体験活動における「さまざまな気づき」と「道德の時間」の関連を図った。体験活動では、それぞれの児童生徒が発見、疑問、驚き、反省、喜び、感動などを感じる。それらを「気づき」ととらえて、「気づき」と関連した「道德の時間」のねらいを設定する。

「道德の時間」には、「総合的な学習の時間」における体験活動での「気づき」を想起して話し合いを行うことで、それぞれの「気づき」の違いに驚きや疑問、反感を持ち、葛藤する。また、他者の「気づき」に共感することもあり、個々に様々な思考をしながら価値の内面化が図られる。そして、実践しよう、実践したいという道德的実践意欲が喚起される。このように、体験活動における「気づき」と関連させることによって「道德の時間」に道德的価値の自覚が深まり、それによって、確かな道德的実践力が身に付いていくことになる。

そして、「道德の時間」に考えた「これでいいのかな」「これがいいはずだ」という道德的な課題が、道德的実践への志向として次の体験活動の中で追求されていくことになる。

このような「道德の時間」と体験活動の「関連」が繰り返されて、児童生徒の道德的価値の自覚が深まり、よりよく生きようとする児童生徒を育成することができると考えられる。

（３）体験活動との関連において「道德の時間」の果たす役割

「道德の時間」を体験活動の前後、どちらに設定すると考えるかによって、「道德の時間」の果たす役割が異なってくる。関連図の矢印が示した通り、道德の時間と体験活動は一方がもう一方を強化するものではなく、互いが生かし合う関係にある。したがって、以下に述べる（Ａ）、（Ｂ）のような道德の時間の役割は、（Ａ）だけ、（Ｂ）だけというとはえ方をするのではない。いずれの場合も「道德の時間」は、教育活動全体で行う道德教育を「補充、深化、統合」する時間であることに変わりない。しかし、その「道德の時間」の中心となる役割をどう定めるかで、体験活動の前に設けるか、後に設けるかが、自ずと決まってくるはずである。

（Ａ）道德的な課題を追求する場としての道德の時間

道德の時間は体験活動のあとに設けられ、体験したことで感じた道德的な課題を追求していく場となる。体験活動における気づきを想起し、ねらいとする価値内容について話し合うことで道德的な課題が追求される。

（Ｂ）道德的な課題を形成する場としての道德の時間

道德の時間は体験活動の前に設けられ、道德的価値に気づき自己の道德的な課題を形成していく場となる。その後に行われる体験活動の意味を自分なりに考え、体験活動に課題を持って向かい、この課題の解決に向けた体験活動が可能となる。

４．児童生徒が道德的価値の自覚を深めるために

（１）道德的価値の自覚が深まったとされる姿について

どのような状態を指して児童生徒の道德的価値の自覚が深まったとされるのであろうか。

道德的価値を自覚するとは、道德的価値を理解すること、主体的に把握すること、実践しようとする意欲を喚起することである。３点のうち、道德的実践への意欲が喚起された段階を道德的価値の自覚が深まった姿ととらえた。

なぜなら、本来、身に付いた道徳的実践力が道徳的実践に結びつくことが望ましいのであるが、どのような場合にも必ず道徳的実践をすることは、通常、人間にとっては非常に難しい。例えば、電車の中でお年寄りに席を譲るといような場面でも、譲ったほうがいいことはわかっていながらなかなか言い出せなかったり断られたらどうしようと考えたりして、実行できないこともあるはずである。また、相手のためになるということでも、第三者に不利益が起るような場合には躊躇してしまう。このように単純な場合だけでなく、生きていく上で直面するもっと複雑な事態の場合には、さらに道徳的実践が困難なこともある。

また、道徳的実践力が、ある時間を経過したのち道徳的実践として表出する場合もある。いつ道徳的実践を行うことができるかわからないが、内面的な道徳的実践力は、将来、道徳的実践を行うための基盤になると考えられる。

このようなことから、本研究会議では、児童生徒の道徳的価値の自覚が深まった姿を、道徳的価値の理解や主体的な把握だけでなく、「実践しよう」「実践したい」という「道徳的実践への志向」が文章や発言に表れた姿をとらえ、分析を進めていくことにした。

(2) 児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるための工夫

体験活動で生まれる「気づき」は様々である。しかし、児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるためには、個々の「気づき」をとらえ、「道徳の時間」と関連させる必要がある。そこで、児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるための工夫として、「気づき」を引き出す方法について考えた。

検証事例1 体験活動の記録から気づきをとらえる

体験活動後、児童の製作した新聞や記録などから「気づき」として考えられる言葉を引き出し、道徳の価値項目に照らして多いものを関連させる「気づき」とする。

検証事例2 体験活動の前に気づきを想定する

「職業」についての気づきを想定し、全員が同じ日に「職業体験」を行う。体験活動のまとめから「気づき」を確認する。

検証事例3 体験活動を繰り返すことで気づきを引き出す

3年間を見通して「総合的な学習の時間」のテーマを設定し、テーマにそった体験活動を繰り返し行うことでどの生徒にも共通の「気づき」や深い「気づき」が生まれるようにする。

検証事例4 体験活動のふり返りに視点を持たせて気づきを引き出す

体験活動の一単位時間ごとに「道徳の時間」にねらいとする価値項目と関連する課題を与えて感想を書かせ、「気づき」を意図的に引き出すようにする。

以上のような4点を工夫し、検証授業を行った。

5. 「道徳の時間」と「総合的な学習の時間」における体験活動の関連を図った検証授業 検証事例1 体験活動の記録から気づきをとらえる（小学校5学年）

「総合的な学習の時間」（テーマ「環境」）で、工場見学や自然教室など6回の体験活動が行われた。児童は、新聞形式等でまとめを行った。その記述内容から「さまざまな気づき」と思われる言葉を抽出し、価値項目に照らした。対照表を見ると勤労・奉仕や国際理解に当てはまるような記述も見られるが、3-(1)自然を守るについての「気づき」が圧倒的に多かったことがわかる。「環境」をテーマとした「総合的な学習の時間」としてはいわば当然のことである。これを、「道徳の時間」にねらいとする価値項目とし、関連を図り授業を構想した。

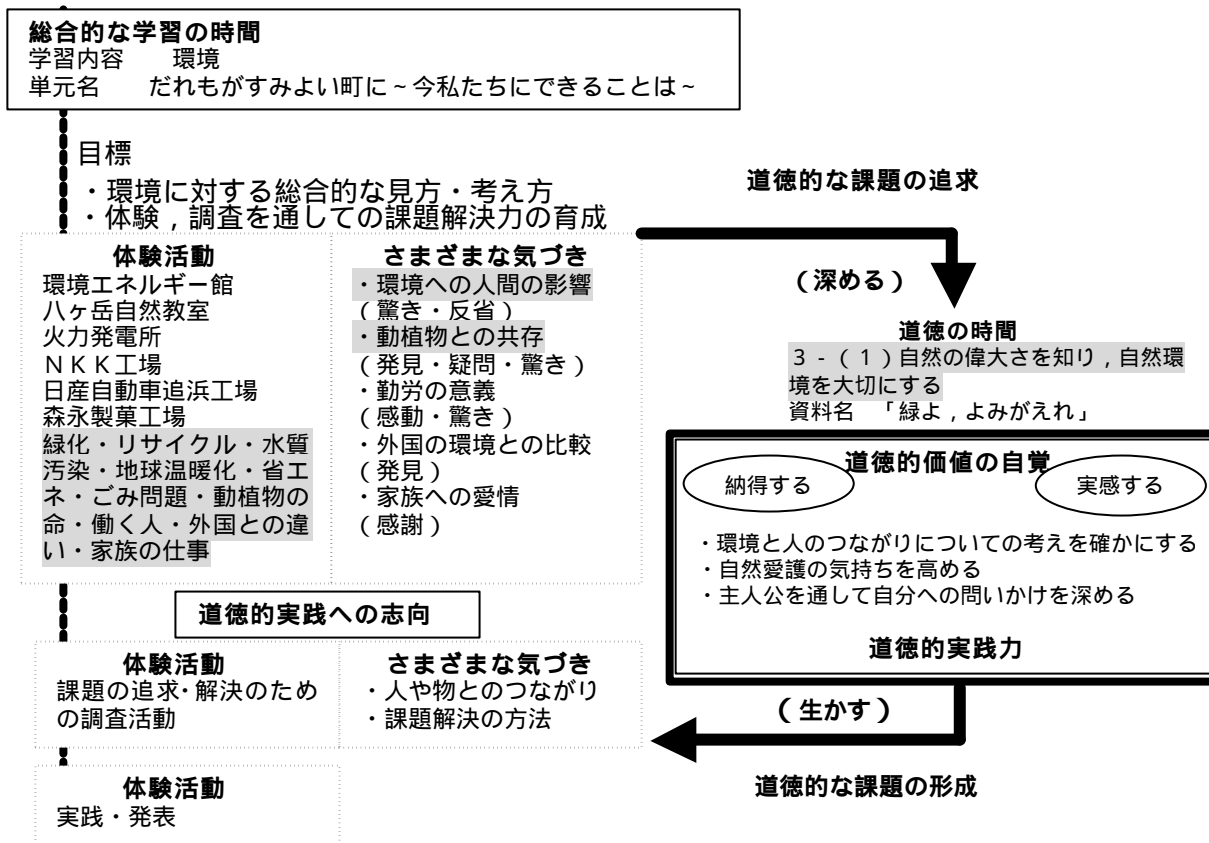
体験活動での「気づき」と価値項目の対照表

エネルギー館につ
いてのまとめの新聞
には「ごみは環境へ
の影響が大きい」
「トイレの水は一回
でコップ75杯分」等、
環境にかかわる記述
が特に多かった。ま
た、火力発電所、N K
Kでは、環境に配慮
した発電や製造の説
明を受け、そのこと
について記述した児
童が多い。

		エネルギー館	自然教室	火力発電所	N K K工場	自動車工場	森永製菓工場
1	(1)節度ある生活						
2	(1)礼儀, 真心						
	(2)思いやりの心						
	(3)友情, 協力		1 6				
	(4)謙虚な心						
	(5)感謝		1				
3	(1)自然を守る	2 2	6	2 7	1 8	3	1
	(2)生命の尊重						
	(3)畏敬の念				1		
4	(1)協力と責任		1				
	(2)公德心						
	(3)公平, 公正						
	(4)勤労, 奉仕	1		2	6	8	7
	(5)家族愛					1	
	(6)よりよい校風						
	(7)郷土愛						
	(8)国際理解			1			

体験活動と道徳の時間の関連図

体験活動での「さまざまな気づき」から生まれた道徳的な課題を「道徳の時間」の話し合いを通して深めていく。体験活動を想起しながら話し合い、他の児童の意見を聞き合うことで、自分の「気づき」について実感、納得し、考えを確かにしたり気持ちを高めたりすることになる。「道徳の時間」に道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力をつけることができる。「道徳の時間」に生まれた新たな道徳的な課題を生かし、児童は道徳的実践への志向としての次の体験活動に臨む。



「道徳の時間」の授業記録

児童の発言	指導・見取り
<p>T 自然教室の昼食場所で何か感じたことはありますか。</p> <p>C 1, C 2, C 3, C 4, C 5, C 6, C 7, C 8がそれぞれ緑, 昆虫, 自然などについて発言。</p>	<p>自然教室の写真を見せ川崎と違う環境であったことを想起させる。</p> <p>発言のたびに目を見合わせる。うなづく。(体験活動の想起・共有化)</p>
<p>T みんないろいろなことを感じたね。今日の資料は、緑に関するお話です。では、資料を読んでみましょう。山野さんが、木の医者になるうと決めたのはどんな気持ちからですか。</p> <p>C 9 木を助けたいからだと思う。</p> <p>C 10 傷んだ木を助けたいから。</p> <p>C 5 木を大切にしたいんだ。</p> <p>C 11 C 5さんと同じで、木を大切にしたいから。</p> <p>C 1 木が好きで、傷んだ木を直したい。</p> <p>C 12 緑をよみがえらせたいんだよ。</p> <p>C 4 山野さんは、自然が好きだから。</p> <p>C 13 緑が好きだから。</p> <p>C 14 だから、緑を増やしたいと思っている。</p> <p>C 15 3年経っているから木を増やしたい。</p>	<p>主人公を通して自分への問いかけを深めさせるための発問。</p> <p>現在ある木を助けるという内容から、木を増やすという内容に発言が変化している。</p>
<p>T 山野さんは木に対してどんなふうに接していますか。</p> <p>C 3 いつも温かい気持ちで接している。</p> <p>C 15 とても優しい気持ちだと思う。</p> <p>C 6 木をどうしても助けたいという気持ちで、木の治療をしている。</p>	<p>主人公を通して自分への問いかけを深めさせるための発問。</p> <p>主人公の心情を推し測りながら自分への問いかけを深めている。</p>
<p>T 山野さんは48歳で樹医になるうと思ってやっと69歳で活躍を始めたんだって。20年だね。こんなに努力して樹医になって、本当に木を大切に思っているんだね。</p> <p>では、山野さんが「もっと木を愛して欲しい」といっているのはどうしてですか。</p> <p>C 5 木が好きで、他の人にももっと木を大切にしたいから。</p> <p>C 7 木を倒しているのは、人間だから。切って紙にしたり、だから大切に・・・。</p>	<p>主人公を通して自分への問いかけを深めさせるための発問。</p> <p>「他の人にももっと木を大切にしたい」という内容に深まっている。</p>
<p>T 再生紙のことを調べているのはC 16さんよね。</p> <p>C 16 (うなづく)</p> <p>C 14 やっぱり、もっと自然を大切にしたいという気持ちだと思う。</p> <p>C 13 もっと自然を増やしたいという気持ち。だって、緑は人間が増やさないとなかなか増えないから。</p> <p>C 17 木を思いやっつてのことだと思う。</p> <p>C 1 木を使うときだけ木を切って欲しい。ぜんぜん切らないわけにはいかないけど、でも、無駄にして欲しくないから。</p>	<p>「総合」の個人テーマ「再生紙について」を想起させる。</p> <p>どの工場でも緑化、水の再利用、リサイクルに力を入れていることの説明を受けている。それを想起した発言。(体験活動の想起・共有化)</p>
<p>T もう少し、自然について考えてみようか。</p> <p>なぜ、人間は、自然を大切にしないといけないのかな。</p> <p>C 5 木がないと人間は生きていけないから。</p> <p>C 7 木は大雨のとき土砂崩れを防ぐよ。それに酸素も増やす。</p> <p>C 6 緑で空気をきれいにしてくれる。</p> <p>C 5 NKKに行ったとき、工場のなかに木を植えている話を聞いたよ。</p> <p>C 4 実を食べる動物だっているから。動物は、食べ物がなくて死んじゃう。</p> <p>C 7 木がないと大雨のとき土砂崩れが起きちゃう・・・。</p> <p>C 12 緑があると明るい感じがする。</p> <p>C 3 木があるとリラックスできる。</p> <p>C 11 フィリピンは木が多くてさわやか・・・。</p> <p>C 18 私の居たところ(フィリピン)はあんまり木はなくて川崎と変わらない。</p> <p>C 7 バンコクは、木がなくて汚れてるよ。</p> <p>C 3 アメリカのほうが日本より自然がある。いい感じ。</p>	<p>体験活動を想起し、道徳的価値の自覚を深めさせるための発問。</p> <p>各工場で受けた説明を想起しながら、植物の必要性や動物との共存について考えている。自然の大切さについて考えを深めている。(道徳的価値の自覚)</p> <p>母国や在住国と比較した発言。日常的に話をしており、他の児童も自然に受け入れる。(体験の共有化)</p>
<p>T いま、みんな、木や自然が人間にも他の動物にも大切だといってくれていたけれど、自然を守るために自分たちに何ができるかな。これから「総合的な学習の時間」に自分で環境について調べることになるけど・・・。</p>	<p>道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践への意欲を喚起させるための発問。</p>

<p>C 6 ごみを増やさないこと。ごみはすごく環境に影響するんだ。 C 3 紙を無駄遣いしない。だって紙は木からできてるから。 C 2 遠足とか公園とかでゴミを拾ってくれば・・・。 C 1 7 環境に影響があるからポイ捨てしない。 C 3 植物を植える。木は植えないと増えないよ。 C 1 6 水を無駄遣いしない。</p>	<p>体験活動を想起し道徳的価値の自覚が深まっている。(道徳的実践への意欲)</p>
<p>T みんないろいろ考えているね。先生の家ベランダに49鉢の植木があるけれどその中の一つが15年目でやっと花をつけました。</p>	<p>教師の体験を共有化させるための語りかけ。</p>
<p>C 3 エー・・・ C 1 1 エー、15年! C 1 9 15年もかかるんだ・・・</p>	<p>ふり返りカードに書くことによって、さらに道徳的価値の自覚を深めさせる。</p>
<p>T そう、15年。すごいでしょ?育てている花でさえよ。だからね、一度壊した自然が元に戻るまで本当に長い時間がかかってしまうものなのよ。自然を守っていかないといけないね。では、ふりかえりカードで、今日の「道徳の時間」のことをもう一度考えてみようね。</p>	

道徳的価値の自覚の深まり

体験活動と「道徳の時間」を関連させることによって、道徳的価値の自覚を深めることができた姿として道徳的実践への志向が表れているものを、児童の発言やふり返りカードから探った。

「道徳の時間」の児童の発言から

- ・公園などでゴミを拾う。(環境エネルギー館で受けた説明「ごみの影響」からの「気づき」と関連)
- ・環境に影響があるからポイ捨てをしないようにする。(環境エネルギー館で受けた説明「ごみの影響」からの「気づき」と関連)
- ・紙を無駄遣いしないことで間接的に木を守る。(NKK工場見学で受けた説明「緑化」からの「気づき」と関連)
- ・木を植えて植物を増やす。(NKK工場見学で受けた説明「緑化」からの「気づき」と関連)
- ・水を無駄遣いしないようにする。(各工場で受けた説明「資源のリサイクル」からの「気づき」と関連)

ふり返りカードの記述から

Q 1 この時間と「総合的な学習の時間」を関連させて考えたことはありますか。(体験活動を想起し環境についての考えを深めている)

- ・自然のことがよくわかった。(2名)
- ・紙を大切にし、木を大切にしたいと思った。(10名)
- ・自然を大切にしたいと思うようになった。(10名)
- ・自分にできることはなんだろうと考えるようになった。(3名)
- ・緑を増やそうと思うようになった。(2名)
- ・緑と人間の生活とのかかわりを考えた。(1名)

Q 2 この時間に何か身に付いたことはありますか。(道徳的価値の自覚を深め道徳的实践への志向が表れている表現)

- ・総合的な学習の個人テーマは川のことだが、共通して環境のことだと思った。
- ・総合的な学習の個人テーマを緑のことにしようと思った。
- ・自分たちの生活と「道徳の時間」の内容を結びつけて考えた。
- ・タイの環境と日本の環境の違いを考えてみた。
- ・資料は緑のことだが、自然や環境全体について語っていると思う。
- ・頭の中で緑が少なくなる原因をいろいろ考えた。
- ・木を植えることで動物など他のものへの影響が大きいことを考えた。緑化が進めば、絶滅する動物も減るかもしれないと思った。
- ・NKK工場で敷地を緑化して環境に配慮している話を思い出した。
- ・通学路の木のことなど今まで目に付かなかったことが目に付くようになった。
- ・みんな話を聞いていて、環境についているんな考え方があると思った。

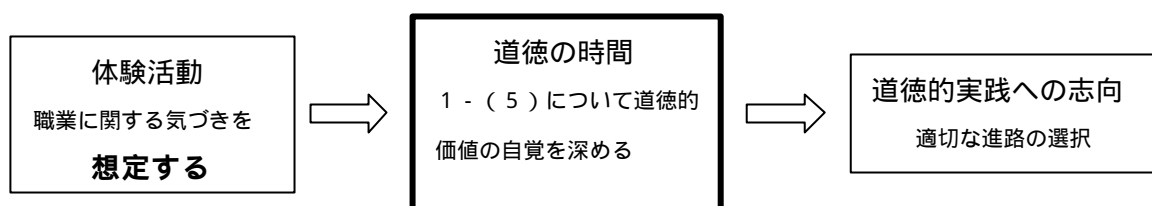
考察

体験活動のまとめの新聞などから、ごみが環境全体に与える影響や緑化の必要性など、児童の中に生まれている「気づき」と思われる言葉を引き出した。「道徳の時間」にこの「気づき」を想起しながら話し合い、また、教師が意図的に価値内容にかかわる「気づき」を感じている児童を指名した。それによって「3 - (1) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること」という道徳的価値を自覚し深めることができたと考えられる。それは、児童の発言やふり返りカードの記述の内容として表れている。発言からは、今後自分たちがしたいこととして道徳的实践への志向が感じ取れた。また、記述からは、自然や環境について広い視野での考えを道徳的实践への志向として読み取ることができた。

検証事例2 体験活動の前に気づきを想定する(中学校2学年)

全生徒が一斉に「職業体験」を行なった。職種は様々であるが、勤労に対する意欲や自分の将来についての考えを深めることを目標とした。この体験活動は同一の日程、同一の課題で行なわれたので生徒によって深浅はあるものの「職業」を意識した「気づき」を想定することができた。「職業」を通じた「充実した生き方」をねらいとする「道徳の時間」を検証授業として設定した。

体験活動と道徳の時間の関連



体験活動における「気づき」

体験活動で生まれた「気づき」について体験活動のまとめから分析する。同時期、同課題の体験であったため共通に「職業」を意識した「気づき」が生まれたと考えられる。

具体的には次の三つの「気づき」をほぼ全員の生徒が持った。

- ・仕事をする大変さ
- ・仕事をする喜び
- ・将来の自分の職業に関する思い

「道德の時間」について

1 - (5) 充実した生き方をねらいとした道德の時間を構想した。元プロ野球選手西本聖氏の椎間板ヘルニアの手術についての読み物資料を使用した。西本氏は、手術の方法について失敗の可能性と選手生命を量りにかけなければならない二者択一を迫られる。家族の生活を守るという立場でもあり、西本氏のとるべき手術の方法について話し合う。

生徒は、野球という「夢」だった職業にかけたいと願う西本氏の本心と現実の問題について考える。その中で自分と西本氏や他の友達との職業観の差異を考え、また、夢と現実について考えることで職業を通した充実した生き方について考えを深める。

道徳的価値の自覚の深まり（道徳的実践への志向が表れている表現）

ふり返しカードの記述から

- ・自分がなりたいと思う職業についたら、その仕事のために何でもできると思った。
- ・美容師になるために2年間美容学校で勉強しなければならないが、夢に向かってがんばりたい。
- ・大人はとて仕事を楽しんでいる。自分も楽しいと思える仕事をしたい。
- ・スーパーの野菜売り場の方は、野菜に対して愛情を持っていた。好きな職業につくというのも夢の実現の一つだと思う。自分も夢をかなえたい。
- ・どんなことがあっても続けられると思う職業につくのがいちばんいい。西本さんのように好きな仕事ならそう思えるはずだ。自分もそんな職業につきたい。
- ・西本さんの生き方はかっこいい。自分もそんな人になりたい。
- ・現実には不況などで必ずしも好きな職業についている人ばかりではない。それでも、与えられた仕事を精一杯やることが大切だと思う。
- ・職業に誇りを持てる人になりたい。

考察

「職業」に関わる「気づき」を想定して職業体験を行い、体験活動のまとめなどから想定した「気づき」が生まれていることを確認することができた。「道德の時間」には、予定していた通り1 - (5) 充実した生き方をねらいとして、話し合いを行った。生徒のほとんどが共通の「気づき」を持っており話し合いがすぐ軌道に乗った。「気づき」の浅かった生徒も、友達の意見を聞き考えを深めていた。ふり返しカードには、それぞれの「職業」を通した自分なりの「充実した生き方」に対する考えを述べており、道徳的価値の自覚の深まりが読み取れる。道徳的実践への志向としては、自分が将来仕事をしていくときの姿勢が表現されている。

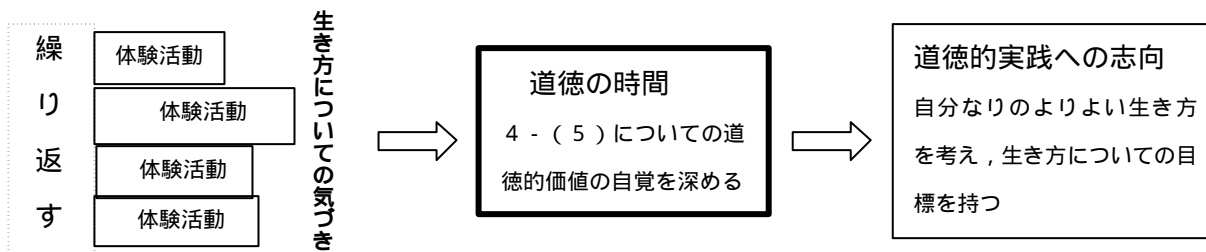
検証事例3 体験活動を繰り返すことで気づきを引き出す（中学校3学年）

2年次より「総合的な学習の時間」には「生き方を探る」というテーマを継続してきている。体験活動としては、地域の方を中心に多様な生き方をしている方々から座談会形式で何度かお話を伺った。また、夏休みに実習奨励期間を設け、生き方に触れるためのインタビュー活動や職業体験など、ほぼ全員が個別の体験活動を行っている。

長期間にわたる学習の中で、生徒には「生き方」「生きがい」「価値観」などの「気づき」が生まれ、漠然と自分の生き方についても自問している。生徒は、体験活動が複数回行なわれたことで、同じ「気づき」を何度も感じ、深い「気づき」をもつこともできた。

「道德の時間」に職務を全うした主人公の姿を通してさらに深く考えさせることで、自分なりの「よりよい生き方」についての思いが高まるよう授業を構想した。

体験活動と道德の時間の関連



体験活動における「気づき」

「総合的な学習の時間」のテーマが「生き方を探る」という大きなものであるため、生徒はそれぞれにまず「生き方」とは何か考えることから始めた。職業や生きがいを持つ大人の姿を通して、どのように生きることが大切なのか、という考えを持った。個別の体験活動から、「勤労の尊さ」「社会への貢献」「職業の選択」「人生観」「価値観」などこれからの自分の生き方や目標と重ねて考えながら、「気づき」を持つことができた。

「道德の時間」について

< 道德的実践への志向を表現している記述 >

読み物資料「不時着時に備えた放送メモ」は、日航機墜落の時にスチュワーデスだった対馬由美子さんが残した、乗客を避難誘導するためのメモを資料化したものである。自分の命を省みず、パニック状態の機内で乗客の安全だけを考慮して書かれたメモは、それだけで強いインパクトと感動を与える。また、主人公の人柄や夫の回想などに触れると、さらに心に響くものがある。

生徒は、自分の仕事を全うし人生を終えた主人公を通して、感動、驚き、疑問、違和感など様々な感情が生まれ「仕事」「生き方」「生きがい」などについての考えを深めることができた。

	体験活動のまとめ	道德の時間のふり返りカード
A	相手の気持ちを考えて介護することが大切。(老人介護体験)	相手のことを考えるということが共通点だと思う。
B	夢をかなえるだけでなくそれまでの過程を大事にし、仕事に生かしていきたい。(法律事務所訪問)	夢にたどり着いた後、どのような気持ちでその職業を続けていくかのほうが大切だと思う。
C	この仕事は大変だけれどやりがいがあると思う。(保育士職業体験)	自分が将来どんな仕事についたとしても責任を持ってその仕事をやり遂げようと思う。
D	基本は同じだから、教え方が違っていても基本を押さえておく必要がある。(野球のコーチを訪問)	全ての人間が(主人公と)同じになることは難しいが、勇気と冷静さに人間としての誇りを感じる。でも、自分に置き換えるとそこまで考えられるかどうかかわからない。
E	仕事とは思えないほど楽しくケーキを作り、趣味のようだった。でも、少人数の職場なので自分の仕事に責任を持たなくてはならない。(ケーキ屋職業体験)	いいかげんな気持ちでは、その仕事を続けられない。強い意志をもって職業を選択することが大切。(主人公は)仕事に対してプライドがある。
F	ソフトボールに対する真剣な思いや気迫を感じた。(全日本ソフトボールチーム宇津木監督訪問インタビュー)	(主人公は)スチュワーデスにすごくなりたかったからこんなに一生懸命仕事をしていただろう。この仕事一筋で責任感が大変強いと思う。自分も今のうちに色々なことにチャレンジしいろいろなることを身に付けプライドを持って思い切り仕事をしたい。
G	仕事をするのは大変だということ。普通の生活の中でも「あきらめない」事が大切。(声楽の先生を訪問インタビュー)	結局(主人公は)助からなかったけれど自分の仕事を最後までまっとうできたことは幸せだったはず。好きなことをやれたのは幸せだ。
H	国を守る仕事のことがとてもよくわかった。(海上自衛隊駐屯地見学)	(座談会での警察官の講話を想起して)警官は住民の安全を守るため時には命を落とす人もいる。(主人公の気持ちと)同じだと思う。
I	居酒屋を簡単に考えていたが、かなり過酷な職業だと思った。もっと自分にあった職業を見つけていきたい。(飲食店訪問)	仕事への思いや客を優先するところなど共通するものがあった。僕も大人になったら最後まできっちり仕事をしたいと思う。

道德的価値の自覚の深まり(道德的実践への志向が表れている表現)

体験活動のまとめから生徒の「気づき」と考えられる言葉を探し、「道德の時間」にそれを想起して道德的価値の自覚を深めていると思われる表現を抽出し、< 道德的実践への志向を表現している記

述 >として表にまとめた。ふり返しカードには「道徳的実践への志向」が表れており、体験活動のまとめと比較してみると内容に深まりが感じられる。

考察

約2年間、同一のテーマで「総合的な学習の時間」が継続され、体験活動も講演会、座談会、調べ学習、個別の体験活動など多数、多岐にわたって行われた。そのため、生徒の中に「生き方を探る」という学習テーマが定着し、「総合的な学習の時間」以外の学習でも自然にそれを意識した活動を行っていた。この積み重ねのおかげで、「道徳の時間」には容易に体験活動における「気づき」を想起して話し合いを行うことができた。

道徳的価値の自覚の深まりについては、主人公を通して自分への問いかけを深め、「私はどのように生きたいか」ということを中心に「道徳的実践への意欲」を記述している生徒が多く見られた。体験活動が繰り返し行われたため、「気づき」自体が少しずつ深まっており、「道徳の時間」の授業を開始してすぐ道徳的価値に触れた発言があった。また、道徳的価値の自覚を深め道徳的実践への意欲が喚起されたのも他の検証授業より比較的早かったように感じられた。ふり返しカードの記述を見ても内容に深みを感じられるものが多かったようである。

検証授業4 体験活動をふり返ることで気づきを引き出す(小学校6学年)

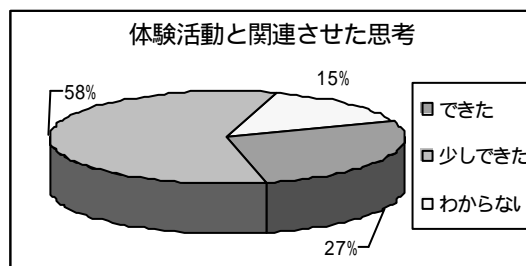
「総合的な学習の時間」において培いたい力を「主体的に考える力」と「コミュニケーション能力」とし、体験活動では「劇」の創作と発表を行った。

「道徳の時間」にねらいとする価値を「2-(3)互いに信頼し、男女仲良く助け合おうとする心情を育てる」とし、読み物資料を使った授業を構想した。体験活動での児童の「気づき」はさまざまであるが、「道徳の時間」との関連を図るため、「協力」「友情」についての「気づき」を引き出せるよう、意図的に体験活動をふり返らせていった。

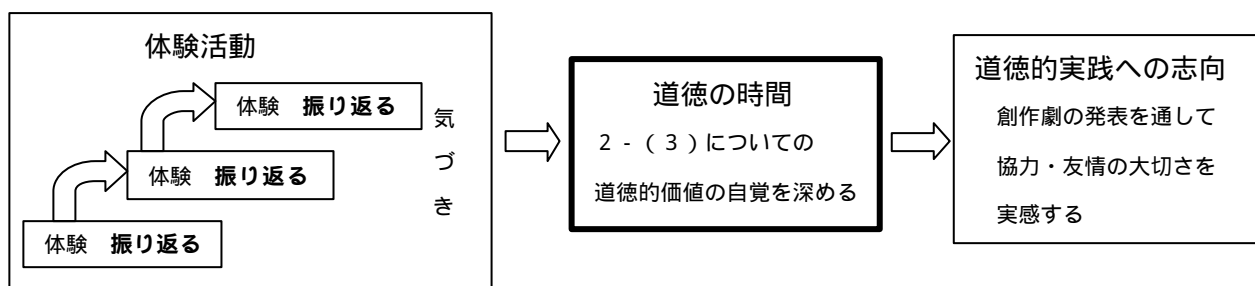
「気づき」を引き出すための意図的な活動

体験活動の前	体験活動中	体験活動の後
事前指導において、多くの人数で一つの劇を作り上げることは何よりも「協力」が大切であること、また、その根底にはお互いの信頼や男女を超えた友情があることなどを話し、心構えを作るよう指導したのち、役割分担を行なう。	一時間ごとに反省を記録させる。活動を振り返る視点を、「友達と力を合わせてがんばったこと」「友達のいいところ」「自分の得意なことを生かした活動」などとし、児童に考えさせる。	反省記録をファイルし、単元終了時のまとめの話し合いを行う際の資料とする。

このように意図的な活動を行うことで多くの児童に「協力」「友情」に関する「気づき」が生まれ、「道徳の時間」と関連を図ることができた。この点について、ふり返しカードによるアンケートで調査した。できた(7名)と少しできた(16名)をあわせると、85%の児童が両方の時間のねらいを結びつけて考えることができ、「総合的な学習の時間」における体験活動での「気づき」を「道徳の時間」に「納得する」「実感する」ことができたと考えられる。



体験活動と道徳の時間の関連



道徳的価値の自覚の深まり（道徳的実践への志向が表れている表現）

ふり返りカードの記述から

- ・それぞれのよいところを生かしていく。
- ・今までの経験から協力すべきところがあるので、頑張りたい。
- ・チームワークよく、書くこと、まとめることなどその人の得意なことを最大限に生かしたい。
- ・みんなで協力することでなんでもスムーズに運ぶと思う。
- ・授業でも行事でも話し合いでは進んで意見を出せばよいものになる。
- ・一人が頑張っているときに他の人も一緒に頑張ることが大切だ。
- ・6年生として自覚を持っているんな意見を出してちゃんとまとめあげられればいいと思う。
- ・資料の内容が自分のことのように思え、これからの生活に生かしたいと思った。

考察

「信頼」「協力」「友情」など言葉としてはなじみがあるものの、それを実感としてとらえている児童は少ないと考えられる。信頼する、協力するとはどんなことか、友情とはどんなものが児童にとらえさせることが必要である。「道徳の時間」を意識して、テーマを与えた上で毎時間の反省や感想を記録させるという、体験活動から意図的に「気づき」を引き出す工夫をした。そのため、児童は2 - (3) 互いに信頼し、男女仲良く助け合おうとする心情を育てるという価値項目について話し合うとき、自分への信頼を感じたできごと、協力して成し遂げた喜び、友達のをさを発見した場面など、具体的に想起することができた。道徳的価値の自覚が深まり、道徳的実践への志向として、今後の自分の行動の仕方や考え方が、大変前向きに述べられている。

研究のまとめ

1. 研究の成果

本研究会議では、児童生徒の道徳的価値の自覚を深めるために、「道徳の時間」と体験活動の関連を図ることについて考えてきた。体験活動における個々の気づきを「道徳の時間」にねらいとする価値項目と結びつけ、話し合いを通し補充・深化・統合を図ることによって、児童生徒は「道徳の時間」に道徳的価値について自覚を深め、次の体験活動や生活において道徳的実践を目指すであろうと考え、仮説を立てた。

4本の検証授業では、「道徳の時間」の前に体験活動を設定したが、何れの場合にも発言やふり返りカードから、児童生徒の「道徳的実践への志向」を検証することができた。本研究会議では、道徳的価値の自覚が深まった姿を「道徳的実践への志向」の段階ととらえており、この視点で発言や記述の内容を見ると、道徳的価値の自覚を深めることができたと考えられる。

体験活動は、「気づきを生む場」として、また、「道徳的実践への志向の場」として「道徳の時間」にとって大変重要な役割を果たす。そして、「道徳の時間」には、道徳的な課題の形成や道徳的な課題の追求が行われる。「道徳の時間」と体験活動の関連を図る上での有用性を高めるためには、体験活動が

ら「道徳の時間」へ、「道徳の時間」から体験活動へとうまく循環させることが重要である。

このように考えた場合、道徳的価値に関連するテーマで比較的長期間の単元として計画されることが多い「総合的な学習の時間」では、体験活動も複数回行われる場合が多く、「気づきを生む場」としても、「道徳的実践への志向の場」としても、その体験活動を活用することが可能であると考えられる。各教科や特別活動における体験活動では、ねらいや期間という点で関連を図りにくかった部分が、「総合的な学習の時間」における体験活動を活用することで解消できるのではないだろうか。

また、「道徳の時間」と体験活動の関連を図る場合、体験活動における児童生徒の気づきを分析し、「道徳の時間」にねらいとする価値項目と思考の上で結びつける必要がある。個々の児童生徒のさまざまな気づきを、検証授業で行ったように 体験活動の記録から気づきをとらえる、 体験活動の前に気づきを想定する、 体験活動を繰り返すことで気づきを引き出す、 体験活動のふり返りに視点を持たせて気づきを引き出す、等の方法でとらえ関連させることが考えられる。

児童生徒の道徳的価値の自覚が深まり「道徳的実践への志向」が表出されるとき、具体的な実践が考えられ、発言や記述内容に表れている場合と意欲の向上や心情の育ちが見られる場合がある。「道徳の時間」と体験活動における気づきを関連させることは、どちらをねらいとする場合にも有効であることも検証された。

以上のように、児童生徒の道徳的価値の自覚を深めるためには、体験活動における気づきを分析し「道徳の時間」と関連を図ることは大変有効である。特に「総合的な学習の時間」における体験活動と関連を図ることが、非常に有用性が高いということが検証されたと考えられる。

2. 今後の課題

本研究会議としては、仮説の検証を行う上で、児童生徒の道徳的価値の自覚が深められた姿を発言やふり返りカードの「道徳的実践への志向」の表出からとらえてきた。一年間という限られた期間で道徳性の発達をとらえる理論的な研究にまで着手できず、このような方法で検証を行ったわけである。しかし、児童生徒が言葉や文章で表現したもので見取りを行うと、教師の主観によって検証結果に差異が出やすく、客観性と厳密さに欠ける部分があるのは否めない事実である。見取りの方法については、道徳性発達理論の研究、研修を含めて、今後、検討していく必要がある。

検証授業については、各学校が年間計画にしたがって教育活動を進めているところへ計画の順序の入れ替え等をして「道徳の時間」を設定していただく形になってしまった。そのため、体験活動のあとに「道徳的な課題を追求する場」としての「道徳の時間」を設定することしかできなかった。つまり、体験活動の前に「道徳的な課題を形成する場」として「道徳の時間」を設定して検証授業を行うことができず、検証結果を得られなかったわけである。本研究の検証結果をより確かなものにするためにも、今後、機会をとらえて検証を行わなければならないと考えている。

また、実際に体験活動と「道徳の時間」を関連させる場合、計画性が重要であると思われる。「総合的な学習の時間」は、平成14年度から全面実施されるため、現在は、試行錯誤しながら実施している学校もあるのではないかと。もちろん今後も児童生徒の興味関心に基づいて学習が進められていくわけだが、培いたい力やねらいを明らかにし、計画的に体験活動も組み入れなければならないであろう。それによって「道徳の時間」をいつどこに、どんな内容で設定するのが道徳的価値の自覚を深めるために有効であるのか、考えることができるようになる。そして、お互いの独自性を損なわずに、有効に「総合的な学習の時間」における体験活動と「道徳の時間」の関連を図ることができる。

しかし、小中学校の15から23項目の価値項目全てについて体験活動と「道徳の時間」の関連を図ることは難しく、有用性についての検証結果も持ち合わせていない。どのような価値項目と体験活

動の関連を図れば，児童生徒の道徳的価値の自覚を有効に深めることができるのか，研究をしていく必要があるのではないだろうか。現在は，行われている体験活動の内容にあわせ「道徳の時間」にねらいとする価値項目を設定している状況もある。だが，本来，双方の関連を無理に図る必要はなく，関連を図ることの必然性や有用性が求められるはずである。そこで，体験活動と関連させたからこそ，道徳的価値の自覚をより深めることができる価値項目を研究し，明らかにしていくことは，「体験活動等を生かした心に響く道徳教育の実施」を推進するためには，大変重要であろう。

さらに，「道徳の時間」自体の充実も望まれる。道徳の授業方法には，様々なものがあり，日常的に多様な授業展開を工夫していかなければならない。例えば，モラルジレンマ方式，価値の明確化方式，グループエンカウンター，ゲストティーチャーの導入など，いろいろな方法やスタイルを取り入れ魅力ある「道徳の時間」を創造していくことが考えられる。児童生徒が「自ら学ぶ」意欲をもって「道徳の時間」に臨むことが何よりも大切だからである。

以上のようなことを今後の課題とし，さらに研究について考えていきたい。

研究を進めていくうちに「心の教育」の必要性を再認識し，その中心となる「道徳教育及び道徳の時間」の重要性についても深く考えさせられました。この研究を日々の道徳教育に生かしていきたいと思えます。

最後に，研究に適切な助言を与えてくださった鳴門教育大学の徳永悦郎先生始め指導助言者の先生方，研究を支えてくださった研修員所属校の校長先生，教職員のみなさまに心からお礼申し上げます。

【参考文献】

押谷由夫	『総合単元的道徳学習論の提唱』	文溪堂	1995年
徳永悦郎	『ジレンマ学習による道徳授業づくり』	明治図書	1995年
伊藤啓一	『「生きる力」をつける道徳授業』	明治図書	1996年
七條正典	『生徒の心に響く道徳授業の進め方』	東洋館出版社	1999年
七條正典	『中学校学習指導要領の展開』	明治図書	2000年
諸富祥彦	『道徳と総合的学習で進める心の教育』	明治図書	2000年

【指導助言者】

鳴門教育大学 教育臨床講座教授	徳永 悦郎
玉川大学 全人教育研究所客員研究員	小川 信夫
川崎市立今井中学校長	林 春子
(平成13年度 神奈川県公立中学校教育研究会 道徳教育部会長)	
川崎市立南生田中学校長	横溝 達夫
(平成13年度 川崎市立中学校教育研究会 道徳教育部会長)	
川崎市立川中島小学校長 (平成13年度 川崎市立小学校道徳教育研究会会長)	田中 憲生
川崎市教育委員会 学校教育部 指導主事	大井 澄子
川崎市総合教育センター 研修指導主事	行川 博幸

【研究協力者】

川崎市立今井中学校 教諭	三宅 和行
--------------	-------